ス　キ　ー　部

宍倉　正胤，松原　久裕，田中　尚武，丹羽　佑輔

スキー部創成期

スキー部の創立は1959年だから今年（2010年）は創立51年目ということになる。昨年（2009年），創立50周年記念の盛大な祝賀会が催された。その歴史を振り返ってみると，東日本医科学生総合体育大会（以下東医体と記す）の冬季部門としての第１回スキー大会を雪の無い千葉県の千葉大学が主管し，その大会での活躍にも目を見張るものがあったこと，さらにその後の大会でも多数の入賞者を出していることなど，その活動面では輝かしいものがある。1956年入学・1962年卒の我々のクラスに黒岩，福士というスキーの達人がいた。黒岩は親が万座温泉の奥万座で旅館を経営していたり，福士は青森の出身であったり，二人とも幼年時からスキーに親しみかなりの腕前で，オーストリーから来日したルディーマットの指導を直接受ける等して技術を研いていた。この二人を中心に我々の学年，一級下，二級下のかなりの人数が，冬休み，春休みに万座温泉に集まりスキーを楽しんでいた。

1958年夏，第１回東医体が開かれた。冬季にスキー大会をという声はあったようだが，実際に猫の首に鈴をつける者はなかった。1959年夏，第２回東医体が終わった頃，黒岩，福士が音頭取りになって東医体の冬季部門としてのスキー大会を千葉大が主管して開こうということになった。それには先ずスキー部を創らなくてはならないということで，万座に集まっていた，単なるゲレンデスキーに物足りなさを感じていた連中が中心になって，この年の11月にスキー部が創られた。部長には当時第一生理学教室教授の本間三郎先生にお願いした。ついでにということで，千葉県には無かったスキー連盟も創っちゃおうということで，我々は「千葉県スキー連盟」の創設にも参画した。従って千葉県スキー連盟の創立も1959年ということになる。翌1960年には，黒岩，福士は千葉県代表として国体に出場した。

1960年１月，千葉大学主管で第２回東医体冬季部門としての第１回スキー大会を万座温泉スキー場で開催した。参加大学は９大学（岩手，群馬，順天，昭和，東京，東医，東邦，日医，千葉）で，種目は回転，大回転，滑降の三種目のみだった。千葉大の成績は福士，黒岩の活躍があり，総合成績は昭和医大，岩手医大についで第３位だった。

この大会を開くにあたりスキー部部員の活動はもとより多くの人々の協力を頂き，特に当時東医体の評議員だった庄司謹（現青木謹）先輩にはこの大会が東医体の冬季部門として公式に認められるようにご尽力頂いた。又，第１回スキー大会を主管したのが，北海道でもなく，東北でもなく，新潟，長野，群馬でもなく，千葉だったのが今でも語り草になっており，我がスキー部の誇りになっている。

スキー部発足当時のメンバー

学部２年（４年）
黒岩璋光，宍倉正胤，嶋田晃一郎
須藤（現岩倉）弘毅，福士和夫，森豊

学部１年（３年）
大木勲，加藤友衛，玉置哲也，原紀道
三木亮

医進２年（２年）
大森忠昭，栗林士郎，河野守正，渋谷光柱
塚田正男，深尾立，山下武弘

医進１年（１年）
関谷宗英，野口眞利，宮腰達郎，柳澤貫一
吉川広和

第２回医科学生スキー大会は1961年１月，東京医大の主管で志賀高原法坂スキー場（現サンバレースキー場）にて開催され，北海道，東北の参加もあり，競技種目に距離競技が加えられた。千葉から須藤弘毅，嶋田晃一郎，栗林士郎の３名が出場し悪戦苦闘の末見事全員完走した。

創成期より揺藍期のスキー部の詳細については千葉大学医学部百周年記念誌スキー部の記事に記してあるが，女子部門の追加についてはここにも記さなくてはならない。女子部門の新設は1965年のスキー大会からである。1964年の東医体の夏季大会の成績で千葉が慶応に0.5点で負けており，冬季大会の結果で２年連続の総合優勝が決まるという状況であった。予想では千葉も慶応も参加点以上の点が取れる見込みがなかった。女子の参加点で１点が貰えるので，慶応が女子のエントリーをしないのを確かめ

て，エントリー締め切りぎりぎりまで伏せておいて，締め切り間際に女子の選手登録を行った。1966年卒の永山（現鈴木）弓君，1968年卒の野間（現高岡）邦子君に出場してもらい，女子の参加が貴重な１点となり，逆に0.5点差で1964年度の東医体の総合優勝に貢献できた。

創部学年（1962年卒）向かって左から森豊，嶋田晃一郎，黒岩璋光，福士和夫，宍倉正胤，須藤（現岩倉）弘毅

（ししくら　まさたね）

昭和50年代のスキー部

私がスキー部に入部しましたのは昭和53年春でした。当時中学・高校と競技スキー部に在籍していたこともあって，医学部に競技スキー部があることを知り早速入部しました。入部当時の雰囲気は全くat homeで新入生歓迎会は五味鳥の２階で，部長の本間先生，宍倉先生，岩倉先生，神田先生（第一生理学教室）を含め現役OBを含めせいぜい10名強の参加だったような記憶があります。中高と競技スキーの経験があると話したところ，期待のホープ？とからかわれているのに，いい気になっていた気もします。

夏場の陸上トレーニングは必ずしも厳しいものではなく，多くの部員はスポーツ系クラブとの兼部等によって冬場に備えているといった感じでした。初めての冬合宿は野澤温泉であったことは印象深く覚えております。朝からランニングといった厳しいトレーニングを覚悟していたのですが，朝もゆっくり起きだし，あまり体育会系とは思えぬ，ぬくぬくとしたのりの合宿だったと記憶しています。ただ，ここでわかったことは，やはり大学生の滑りのレベルは高く，ゲレンデでもコブ斜面ではおいていかれている場面が多く，期待のホープの面子は全くつぶされました。しかしながら，合宿，大会（７大戦，東医体）で先輩方との付き合いが深まるにつれ，スキー部にはまってゆく自分を感じておりました。医進２年時には高田博之主将（S56年卒）のもと，木島平スキー場にて７大学対抗戦を主管した思い出はあるのですが，このときの自分の成績は全く記憶にありません。また，思い出深い試合は，１，２年の頃，確か６月頃に行われた，群馬大学主催のマチガ沢での記録会です。麓よりスキー板をかついで沢を登り，ポールをくぐって降りてくるだけの繰り返しでつらかった思い出が強いのですが，夜の宴会も大変盛り上がり，他大学の部員と仲良くなれた貴重な行事でした。学２でマネージャー，学３でキャプテンを務め，競技の成績では目立つことは全くできませんでしたが，すばらしい先輩，同級生，後輩に恵まれ，いつもどこか抜けている私を補佐いただき，何とか大過なく役職を終えることができました。また，当時の競技スキーブームもあって部員が大幅に増え，major なクラブに成長しつつあることを次第に実感できました。また夏場の陸上トレーニング，いろいろなスキーキャンプへの参加も含めその活動は大変活発になっていったような気がします。

そして学３の東医体（石打丸山スキー場）において長らく活動を中止していたクロスカントリー競技への復帰（リレー競技のみ）を果たしました。それまで全くはいたこともない，部室で埃を被っていた板や靴をひっぱりだし，にわか知識で waxing を行って練習もそこそこに出場したことを覚えております。案の定，wax は合わず半分下駄状態で，汗まみれになりながら何とか完走を果たすことができました。確か４人継走だったものと記憶しておりますが，順位はよく覚えておりません。これ以降，千葉大学医学部スキー部のクロスカントリー競技が復活し，現在はアルペン競技と同様に力を入れて取り組んでいると伺い，我々の参加が少しでも復活のきっかけになったのではと喜んでおります。

（たなか　なおたけ）

現役部員の活動

2010年５月現在，現役部員は23名（男子16名，女子７名）。ほとんどの部員が入学前に競技スキーの経験はありません。千葉県内にはスキー場がなく，放課後スキーに行ける雪国とは違って厳しい環境ですが，向上心ある部員が多くコーチに恵まれていることもあり，６年間で東医体上位を狙えるまでに上達します。練習に対しては真面目で熱心ですが，人数が少なめのためか，それとも部員の性格からか，アットホームな雰囲気です。2009年には創立50周年を迎えました。

週１回の部活ではインラインスケートを始め，ス

キーのイメージ作り，バランス感覚の向上，基礎的な体力作りを青葉の森公園で行っています。有志は５月から８月上旬までは週末や夏休みを利用し山形県の月山で小原コーチに教わって雪上ゲートトレーニングを行います。夏休み，他の部活の東医体が終わるころには部員みんなで旅行に行きます。

10月末に静岡県のイエティスキー場で新入生に基礎を教えた後は，いよいよシーズンイン。小原コーチの主宰する丸沼高原でのキャンプが最初の本格的な合宿です。この時期はポールを張れない分，基礎をしっかり確認します。12月中旬ごろ，北海道に飛び小原コーチのキャンプで実戦的なゲートトレーニングを行います。北海道でクリスマスを迎えると，菅平高原に移動してシーズン最初の大会の十大戦（関東中部国公立十大学医学部対抗スキー大会）に臨みます。2010年は千葉大学が主管を務めました。年明け以降，米沢や菅平で行われるキャンプやOB・OGと一緒にスキーを楽しむOB戦，さらには個人的に練習に励む者もいて，多い部員では毎週のようにスキーをしています。また，信州大学などと一緒に合宿する機会も多く，大学を超えて仲良くなります。

大学のカリキュラムが年々厳しくなるなか，上級生もなんとか都合をつけて東医体に出ます。１年間の練習の成果を出せるように真剣勝負です。クロスカントリーは１年生中心に男子15km，女子５kmにチャレンジし，苦しみながらも全員完走しています。リレーは精鋭（？）のＡ戦，残りのメンバーで作ったちょっとおふざけのＢ戦に分かれ，それぞれ楽しみます。アルペンでは年々力を付け，2009年度は５年生（05M）が大活躍し，それぞれが特別シードを獲得しました。東医体合宿は20日近くの長期なので，東医体が終わるころにはスキーをしない千葉の生活に違和感を覚えるようになります。

スキー場では一生懸命練習するスキー部ですが，合宿の帰りには温泉に寄ったり，その土地の名所をまわったり，ご当地グルメを食べたりといったことも楽しみの一つです。温暖化の影響からか，年々雪が少なくなって今後が心配ですが，スキー部が75周年，100周年と続いていくよう発展させていきたいです。

（にわ　ゆうすけ）

千葉大学医学部スキー部
創部50周年記念祝賀会開催

千葉大学医学部スキー部創部50周年記念祝賀会は平成21年10月31日（土）京成ホテルミラマーレにて開催された。本間三郎初代部長（昭21），青木謹元東医体評議員（昭36），栗山喬之元部長（昭43），小原務現コーチの４名の来賓，57名のOB，OGそして現役部員17名が集い盛大に行われた。

岩倉弘毅OB・OG会長（昭37）の開会の挨拶に続き，本間名誉教授，栗山名誉教授から御祝辞をいただき，現部長の松原久裕（昭59）が挨拶をして，宍倉正胤先生（昭37）の乾杯にて祝宴が開始された。（写真）東医体で初めてのスキー競技を主管したのが北海道，東北，上信越の大学ではなく我が千葉大

学であったことなど創部当時の懐かしい話を伺い，ご活躍された黒岩璋光先生（昭37），福士和夫先生（昭37）が当時の様子をお話しされた。青木先生が写真を大切に保管されていたため，現役部員がスキー部50周年のあゆみとして編集し，短編映画風に仕立て大好評を得た。さらに現役部員の清水規弘君が作詞・作曲した千葉大学医学部スキー部50周年記念曲が披露され，盛会のうちお開きとなった。この記録はスキー部50周年記念誌に掲載された。祝賀会は岩倉先生，宍倉先生を中心に山川久美先生（昭53），田中尚武先生（昭59），谷合厚先生（平７）をはじめとするOBと現役部員が協力して準備を行った。盛大なすばらしい会であり，有志は魚民に準備された二次会にて今後の発展を祈念し，さらに杯を重ね語り合った。

（まつばら ひさひろ，たなか なおたけ）